

おのきた
尾北校長室から

第22号



温故**創**新～歴史と伝統

2500年ほど前の中国で、孔子という人が弟子に話した言葉をまとめた『論語』に、有名な「温故知新」（かんこちしん 故きを温ねて新しきを知る）がある。標題の「温故**創**新」は、日本のある首相が中国を訪問した際に、その孔子を祀った孔子廟まつというところで記帳した造語で、日中両国は過去を踏まえ未来志向の新たな関係を創っていこう、という意欲を示したものだ。

「未来を動かす尾北」——この「**創**新」の精神を北高生の「標準装備」として期待したい。

日本が誇る新幹線は、1964年の東京オリンピックの開催に合わせて開発され、当時の世界最速鉄道として「夢の超特急」と呼ばれた。国を挙げての大いなる意気込みを感じさせるこの新幹線は、新しい技術の粋を集めて完成したように思われている。しかし、実のところは、既に安全性などが証明されている技術を組み合わせることで実現したものだった（島秀夫著『新幹線をつくった男』）。**既にあるものを生か**し、世界の鉄道の歴史を大きく塗り替えた新幹線は、「温故**創**新」の典型といえる。



さて、本校は90年を超える伝統校である。ここで、「学校の伝統」ということについて考えてみたい。「伝統を・・・」に続く動詞は、多くは「守る」であろう。では、伝統を守るとはどのようなことなのだろうか？ **同じ行事を何年も繰り返す**ことが守ることなのだろうか？ それならば、私には単に「**保存する**」との区別がつきそうにない。

「歴史」という言葉は、おそらく**過ぎ去ったもの**の積み重ねを意味する。だとすれば、伝統というものに新しい意味が付け加えられなくなった時、それは**その時点で静かに「歴史の一部」と**なるのではないか。学校の伝統とは、先輩から後輩に受け継がれていく「動的なもの」で、受け継ぐ側は絶えず新しい意味・内容を付け加えなくてはならない。さもなくば、「過去」のものになるからである。

伝統の一つに挙げられるものに校訓がある。本校の校訓「**自尊・自恃・自制**」（自らを尊重する、頼る、律する）は、戦後の1949年、社会のそれまでの価値が大きく変わる中、新しく「尾道北高校」という名称になった**当時の生徒たちが、自らの心構えとして定めたもの**である。

時を経て現在、前代未聞のあの臨時休業で、学習は自分で計画実行するという経験をした。大規模な自然災害が多発し、多様な価値観がスピードを上げて変化していく現代社会にあっては、他の誰かに頼ることなく**自分で自分を前に進めていく力**が一層必要とされている。こう考えていくと、この「**3つの自**」の精神は、現在の北高生にも求められているものであることが分かる。まさに伝統とは、守るだけではなく、時代に合わせて**新しく意味を付け加え創る「温故**創**新」そのもの**である。



新しい伝統を創る目的で、今年度**チューター制**が始められたところである。With コロナの時代、「**新しい日常**」が求められている中、「**創る伝統**」が**もっと強調**されてよい。北高生には、自らを振り返り「新しき自分」を創り出す努力を続けてもらいたい。それこそが学校の新しい伝統づくりのエネルギーである。

私たちは、尾北の長い歴史の最先端にいる。そして多くの人々が受け継いできた「尾北の伝統」というものにおいて、在校生一人一人は、**滔々と流れ続ける大河の一滴一滴**だと思えるのである。